

理科部門

総評

今年は、普段大人が見落としがちで日常の現象に着目し、独創的な切り口で研究していく作品が多く見られ、あらためて子どもへの「知」に対するまなざしの鋭さに驚かされました。また、例年以上にひとつのテーマに対して粘り強く研究を重ねた意欲作が多く見られました。たとえ予測しない結果に驚き、落胆しても、そこから努力して見つけた答えは、何ものにもかえがたい充実感を与えてくれます。情報化社会において、他者の情報に頼りがちな風潮のなか、子ども達が自分の力で果敢にテーマを見つけ探究していく姿に、頼もしさを感じました。

賞 文部科学大臣奨励賞

クラゲを探る

神奈川県 茅ヶ崎市立松浪中学校 3年 藤田 奈都季

クラゲについて、昨年より引き続いて追究している完成度の高い作品です。ひとつのテーマに対して継続的に研究を行うことは、とても価値のあることです。しかも、継続して研究を続けるなかで、新聞記事などの情報を集めたり、水族館の人や漁業関係の人に話を聞いたりして、様々な角度からクラゲを探究しているところがすばらしいです。この経験を活かし、これからも新たな問題を見つけて、追究してほしいと思います。

賞 優秀賞

アサガオのふしぎ

東京都 白百合学園小学校 5年 齋藤 見早



飛べ！フライングサークル！目と目、10mm！

岐阜県 岐阜市立西小中学校 4年 森 理人

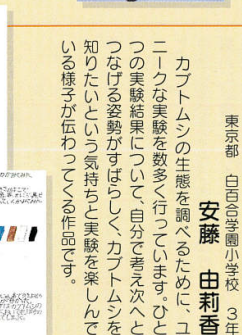


賞 子どもの文化・教育研究所 理事長賞

どこまで走る無動力車

岐阜県 岐阜市立長良西小学校 5年 佐竹 良太

同じ高さの坂から降下した車がどこまで進めるかの研究で、子どもらしい素朴な発想で色々と条件を変えて試している点が評価できます。今後はデータ処理の仕方として平均値の利用やグラフ表示といった表現技法を学んでいけば、ますます説得力が加わるでしょう。植物や虫の観察が多い中、物理的なテーマに真っ向から取り組んだ点はすばらしく、内容も明解でおもしろく仕上がっています。



賞 全国中学校理科教育研究会 会長賞

集まる水の不思議

神奈川県 茅ヶ崎市立鶴岡中学校 3年 金田 彩季

水を飲み終えた後の容器に残った水滴から水のふしぎについて研究しようとした着眼点が、非常にユニークで高く評価できます。何気ない普段の生活の中にも、とても豊富な研究材料があるということが教えてくれる作品です。



賞 日本初等理科教育研究会 理事長賞

カブトムシの研究

東京都 白百合学園小学校 3年 安藤 由利香

カブトムシの生態を調べるために、ユニークな実験を数多く行っています。ひとつの実験結果について自分で考え、次へつなげる姿勢がすばらしく、カブトムシを知りたいという気持ちと実験を楽しんでいる様子が伝わってくる作品です。



賞 全国小学校理科研究協議会 会長賞

ちようのひみつをさがせ！

愛知県 岡崎市立玉立小学校 6年 橋本 大輝

興味を持った蝶の幼虫について多くの実験と成果がまとめられた作品です。疑問を実験で解消しつつ、新たに生じた疑問に再び実験で挑んでいます。徹底的に謎を解明したいという情熱とそのための工夫・意欲がよく伝わってきます。



賞 中央出版株式会社 社長賞

アリについて

岐阜県 岐阜市立加納小学校 3年 萩野 早也香

アリを飼育していくなかで、巣が作られていく様子が驚いたことなどをきっかけとして行われた研究です。実験の前段階としてアリについてしっかりと調べているので、実験において観察がきまっています。確にこの研究ができています。

